

心の傷を負われた兵士の実態の展示について（案）

1 身体に傷を負った兵士以外の戦傷病者に関する展示について

しょうけい館においては戦傷病者とその家族の労苦を語り継ぐため資料の収集や展示を行ってきたところであるが、その展示内容は身体に傷を負った戦傷病者が中心となっているところ。

そのため、心の傷（精神疾患）で苦しんだ戦傷病者にかかる展示についても取り組むこととしたい。

2 展示に向けての取り組み方について

令和6年度に心に傷を負った兵士（戦争神経症）について資料収集等を行い、来年度の有識者会議において、案を提示することを目指したい。

当時の資料や、研究者の研究成果を中心に調査を行っていくことを想定。

（参考）令和5年3月15日（水）衆・厚生労働委員会における加藤厚生労働大臣の答弁

PTSDを含めて心の傷を負われた元兵士やそのご家族の実態を語り継ぐということは、まさに今申し上げた戦傷病者とその家族が戦中戦後に体験した労苦を次の世代に伝えていくというためにも大事なことだと考えております。

そういった意味で、しょうけい館において、こうした点について、元兵士やその御家族の体験、専門家による研究の成果などを調査し、また、しょうけい館には運営有識者会議というのがございますので、そこでの議論も行っていただく中で考えていきたいと思っております。